

17*	石垣島ていだダイビングサービス/ダイブステーション ブルミンゴ/コーラル・ネットワーク	リーフチェック石垣フサキ沖	3月1日(金)～2日(土)
18*	一般社団法人 チームけらま	ケラマ諸島 4島一斉ビーチクリーン	3月3日(日) ビーチクリーン
19	竹ヶ島自然再生協議会	竹ヶ島自然再生協議会シンポジウム	3月2日(土)
20*	Innoqua	渋谷にサンゴ礁を作ろう!	3月10日(日)
21*	特定非営利活動法人石西礁湖サンゴ礁基金・崎枝公民館・石垣島をもっと元気にするプロジェクト	畑と海をつなぐサンゴのまつり 2019	3月3日(日)
22*	海 LOVE in 宮古島 2019 実行委員会	海 LOVE in 宮古島 2019	3月3日(日)
23*	コーラル・ネットワーク	「失われたサンゴ礁が警告する沖縄の未来」出版記念講演会	3月5日(火)
24*	特定非営利活動法人 宮古島 海の環境ネットワーク	サンゴ礁ウィーク 海辺の生きもの観察会	3月10日(日)

➤ 実施後のメディア掲載など

- RBC 放送の番組「南の島のミスワリン (第 88 回放送分)」にて、「わたしたちの沖縄の海のサンゴを見に行こう!」「ケラマ諸島 4島一斉ビーチクリーン」が取材され、紹介された。
(RBC ホームページ内の番組概要:
https://www.rbc.co.jp/tv_programlist_v2.php?p=26683&s=0xF810&e=20403&ed=20190323)
(Youtube: <https://www.youtube.com/watch?v=YXtQ7BFtLaY>)
- 日本サンゴ礁学会ニューズレター81号に、サンゴ礁ウィーク 2019 を総括した協議会の寄稿記事が掲載される予定 (2019年4月23日時点未公開)。また、サンゴ礁学会若手の会のイベント「沖縄のサンゴ礁研究最前線～カモンベイビーS&G.0.」についてのレポート記事が掲載される予定。
- フェア出店者によるフェアのイベント記事
 - ◇ 有限会社エバ・グリーンブログ
(<https://vip.health-c.jp/%E3%82%B5%E3%83%B3%E3%82%B4%E7%A4%81%E3%82%A6%E3%82%A3%E3%83%BC%E3%82%AF2019%E3%81%AB%E5%8F%82%E5%8A%A0%E3%81%97%E3%81%BE%E3%81%97%E3%81%9F%EF%BC%81/>)
 - ◇ 雑貨店 Handmade chikuchiku ブログ
「チクチクライフ」 (<https://chiku.ti-da.net/e10971845.html>)
- その他、各登録イベントにおいて、実施後に新聞、テレビ等のメディアに掲載されている。

<フェアイベントの実施>

協議会が主催するフェア（食品・雑貨市）を開催した。フェア開催の目的としては、サンゴ礁に関する調査研究や保全活動に普段から関わる・深く関心を持っている層とはまた違った層の参加者が、フェアを通じてサンゴ礁や海の環境保全といったテーマに触れ関心を持つきっかけを作ること、調査研究や保全などの活動に関わる層と交流を持つ機会を作ることが挙げられる。

➤ 概要

開催日時：2019年2月23日（土）10:00-16:00

開催場所：新都心公園内緑地帯（〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目2）

内 容：

- サンゴ礁ウィーク 2019 のオープニングセレモニー
- 「わたしのさんご礁イメージコンテスト」の表彰
- 出店者による雑貨・食品の販売
- 外部の有志によるステージでのパフォーマンス

➤ 企画・運営

フェアに係る業務は（一社）キュリオス沖縄への委託業務として行われた。また、出店者とのやり取りや申請関係、ステージプログラムのブッキング、当日の会場設営など一部を、イベントプランナー（フォアプランニング榎本氏）へ再委託した。また、当日の運営（備品調達、会場設営、出店者誘導、会場マップの配布、本部対応、出店者との調整、司会進行、会場撤収）は、キュリオス沖縄、榎本氏、協議会メンバー有志3名に、外部からの補助人員計6名（うちアルバイト4名）を加えて行われた。

➤ 会場の選定と利用申請について

初回開催のため、集客や出店者のアクセスを考慮して那覇市の新都心公園内の緑地を選定した。隣接する県立博物館・美術館ではサンゴ礁ウィークイベントや「わたしのさんご礁イメージコンテスト」作品展示が行われており、公園使用にあたっては、公益性のあるイベントとして一部（非物販エリア）の公園使用料の減免措置を受けた。事前に那覇市の公園管理課への公園利用申請、管轄消防への連絡をおこなった。

➤ 出店者・出展者募集

2018年12月6日～2019年1月31日の期間に、当協議会メーリングリストやHP、Facebook ページにて、また榎本氏、協議会員の協力によりフェアの出店者・出展者の募集を行った。「沖縄ハンドメイド情報」への出店募集の掲出も行った（<https://okinawahandmade1.ti-da.net/> ※削除済み）。出店・出展対象の店舗・企業はそれぞれ「何らかの形で環境保全・持続可能性に配慮した雑貨や食品販売など、サンゴ礁保全とその普及啓発に資する商品やサービスを扱う店」「サンゴ礁や海の保全、環境保全・持続可能性に何らかの形で貢献する企業」とした。出店・出展の登録はweb上のフォームを用いて行った。募集の結果、食品15店舗、雑貨21店舗の計36店舗の参加登録があ

った。食品を扱う店舗からは 1,500 円、その他の店舗からは 1,000 円の出店料・出展料を徴収した。

➤ 広報活動

サンゴ礁ウィークの Facebook ページより、出店店舗に関する情報を発信した。SNS やブログなどの自前の媒体を持っている出店店舗に、フェアに出店する旨とフェアの PR を依頼した。また、今回は出店店舗向けにもサンゴ礁ウィーク 2019 のチラシを送付し、サンゴ礁ウィーク 2019、およびフェアの告知をお願いした。

フェアの告知用にチラシを作成し、告知に使用し、また当日の会場内での誘導用に、会場マップ・出店店舗一覧を作成し来場者に配布した（それぞれ、資料編—サンゴ礁ウィークフェア—資料 A，資料 B を参照）。

来場者に向けてサンゴ礁ウィーク 2019 の実施イベントについて周知するため、サンゴ礁ウィーク 2019 のチラシを配布するとともに、サンゴ礁ウィークイベント一覧表を作成し、パネルとして出力し本部に掲示した。



➤ フェア実施内容

来場者：858名（会場マップの配布数により計数）

出店店舗：31店舗

会場配置：下記に示した会場図の通りに本部、ステージ、普及啓発ブース、出店店舗が設営された。消火器を1ヶ所に設置した。

ステージは、沖縄県平和創造の森公園より借用した平台を組み合わせて組んだ。ステージ横には業者により音響機材が設置され、ステージ左右に音響システムが組まれた。音響システムには、ステージ横に置いた発電機から電源を供給した。

本部では、会場マップ・出店店舗一覧やサンゴ礁ウィーク 2019 のチラシの配布、事前に希望のあったサンゴ礁ウィークイベントのチラシの配布、および本部対応をおこなった。また本部にて絵本「ウミウシたちのせいくらべ」の販売が行われた（売上全額がサンゴ礁保全活動に寄付される予定）。



サンゴ礁ウィークフェア会場図

▶ フェアイベント収支

フェアの収支を以下の表に示す。

項目	支出(円)	備考
イベントプランナーによるイベントの企画・準備・実施サポート	250,000	
補助人件費	25,600	800円×8時間×4人
テントレンタル費	15,000	3基分+追加ペグなど
テープカッター式レンタル費	21,000	
消火器レンタル費	5,000	イベント用の大型
新都心公園使用料	6,420	公共性のあるイベントとして一部減免
音響レンタル費・技術料	20,000	
保険料(レクリエーション賠償責任保険)	19,580	
レンタカー代	5,000	1台×2日分、舞台の運搬に使用(軽トラック)
発電機用ガソリン代	140	1L
レンタカーガソリン代	1,800	
マーカー・ゴミ袋購入費	756	
ケント紙・粘着剤購入費	1,080	
B2パネル(イベント一覧パネル)印刷代	3,024	
各申請書類(那覇市、消防)印刷代	260	
出店料徴収*	(37,500)	食品(1,500円/店舗)15店舗、雑貨(1,000円/店舗)15店舗分。雑貨の「U' i ohana」については、フラチームとして無料で出演していただいたため出店料免除とした。
支出計	337,160	

*出店料による収入は、フェア実施に係る経費と相殺した。

▶ **フェア出店者について**

参加登録のあった食品 15 店舗、雑貨 21 店舗の計 36 店舗のうち、一部直前の出店キャンセルがあり、当日は食品 15 店舗、雑貨 16 店舗、計 31 店舗の出店があった。出店店舗一覧については、資料編—サンゴ礁ウィークフェア—資料 C を参照。

▶ **フェアイベント会場の様子**

フェアイベント会場の写真については、資料編—サンゴ礁ウィークフェア—資料 D を参照。

<わたしのさんご礁イメージコンテストの実施>

2018年11月19日から2019年1月31日の期間で作品の募集が行われたが、応募作品が少数であったため、応募締め切りを2月12日まで延期した。その結果、写真部門に19点（昨年より5件減）、絵画部門に8点（17点減）の応募があり、各部門から最優秀賞を1点ずつ選出した。応募作品は2019年2月19日（火）より2019年3月10日（日）沖縄県立博物館・美術館にておいて展示を行った。



写真部門 最優秀賞
『海、大好き!』
(撮影者：有山 誠氏)



絵画部門 最優秀賞
『太陽の恵み』
(作者：与儀 俊介氏)



沖縄県立博物館・美術館のエントランスエリアにて作品を展示した。

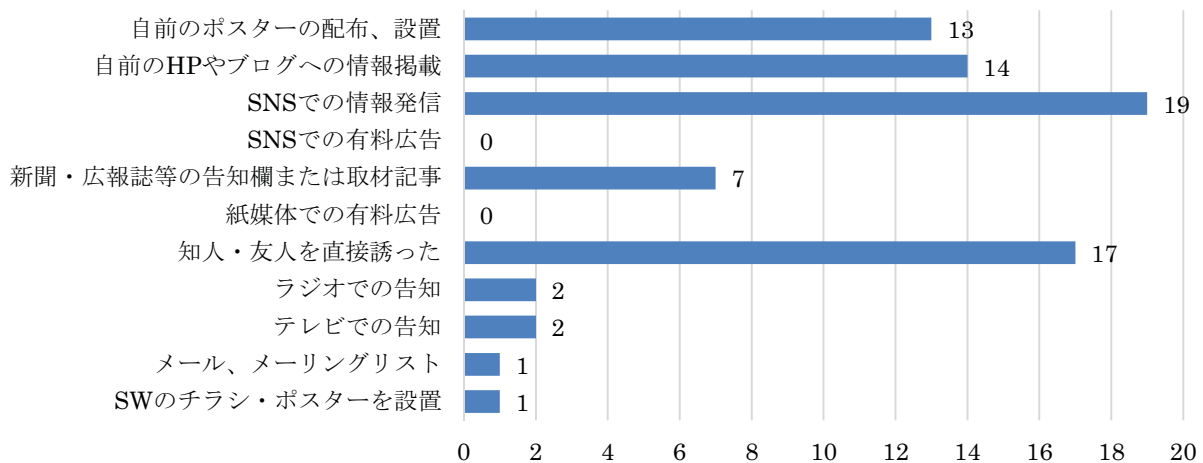
○フィードバックと今後の展望

<フィードバック>

A. イベント実施団体向けアンケートについて

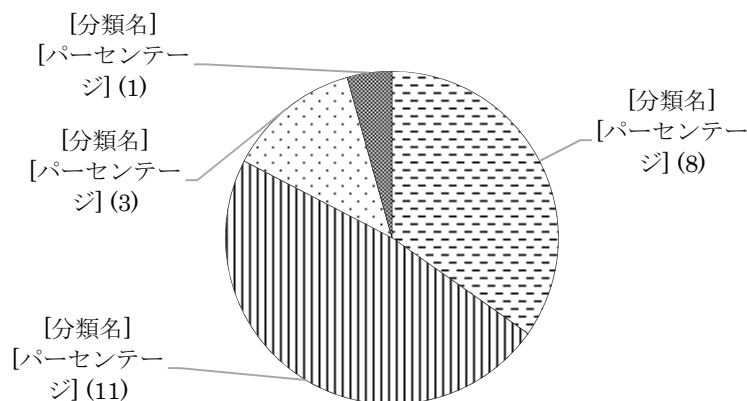
イベント実施団体に対してアンケートを実施し、イベント開催にあたっての課題や必要な支援についてヒアリングを行った（回答数 23/24 団体）。以下にその結果を示す。

イベントの広報で利用した手段（複数可） 23件の回答



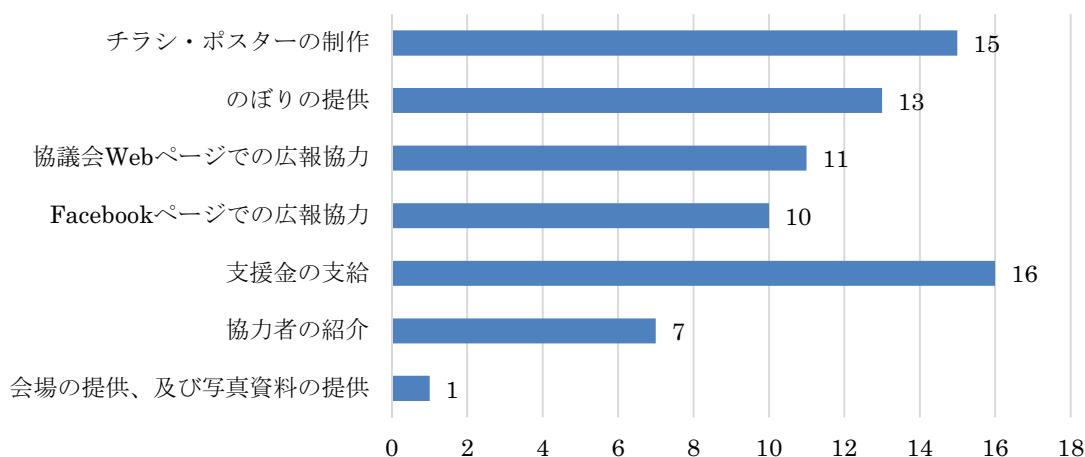
「SNS での情報発信をおこなった」と回答した団体は 8 割にのぼりもっとも多く、次いで「知人・友人を直接誘った」が多かった。広報費の掛からないオンラインでの広報活動や新聞・雑誌の無料告知欄を活用して広く情報発信に努めていることがわかった。また、回答した団体の半数以上が独自に広報資料を制作して広報を行っていることがわかった。地元のイベントごとに関して、広報誌のような紙媒体が強かった離島でも、年々着実に SNS に情報交換の主流が移ってきていることが伺える。

イベントの集客の成否 23件の回答



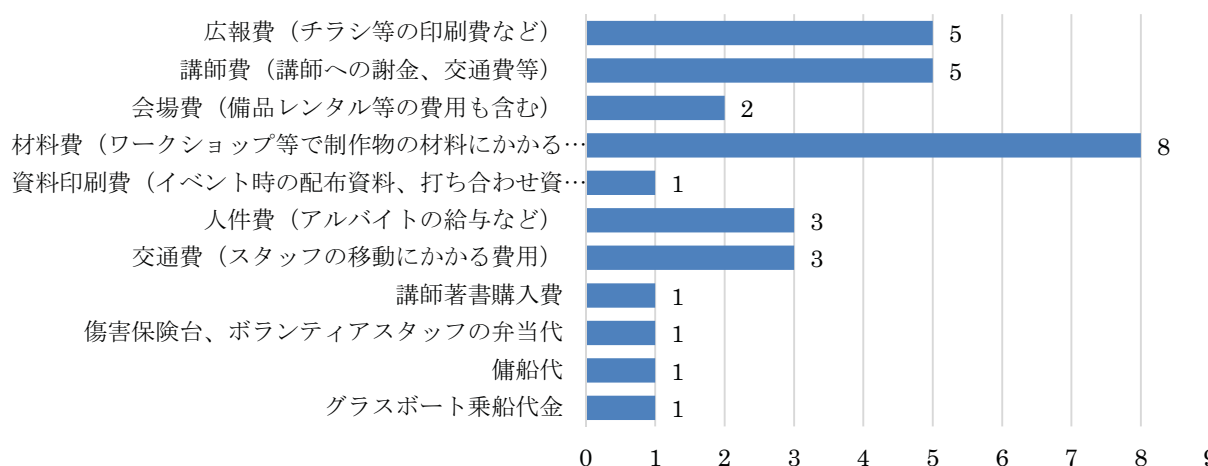
「十分に集客できた」のは回答した団体が3割を超えた一方、「まったく集客できなかった」と回答した団体もあった。今回、野外でのイベントが集中する週末の天候が悪かったことも、集客が難しかった一因と考えられる。

協議会の支援で役に立ったもの 22件の回答



協議会からの支援で最も役に立ったのは「支援金の支給」となり、次いで「チラシ・ポスターの制作」であった。のぼりは半数以上の団体が役に立ったと回答し、「視認性がよくイベントで使いやすい」という声もあった。また、協議会のWebページやFacebookページでの広報協力が評価されていた。

イベント実施予算の内訳 22件の回答



イベントの予算で最も割合が高いものは「材料費」、次いで「広報費」「講師費」が並んでいる。イベントの形式の多様化にともない、予算の使途も多様化していると考えられる。

*支援金の使途については、記載するフォーマットを整えていなかったため記載の有無、記載の仕方は各団体によりまちまちになってしまった。確認できたものを挙げると、①参加者に提供する飲食物もしくはその材料の購入費（4件）②ワークショップの材料費（3件）、講師謝金（2件）、保険料（2件）、スタッフの交通費（2件）、スタッフ人件費（1件）、会場費（1件）、広報費（1件）、グラスボートチャーター費（1件）、参加者にプレゼントするための著書の購入費（1件）であった。

イベントの準備段階や当日の運営面で課題や悩み（記述）

- イベントが近づいても定員になかなか達せず、かなり焦りを感じた。広報については、他施設とも協力して今よりもっとお互いに広報できるしくみがあればいいなと感じた。
- 野外なので天候が読めない。
- イベントが野外での活動となるため天候に左右されることが多い。常に代替案を用意してイベントを開催しているが、申し込んだプログラムと参加できるプログラムが変わってしまうことがあるが、海の観察会は反響が良いので続けて行きたいと考えている。
- 今回、天候がかなり厳しく、なんとか実施できたものの天候が理由でのキャンセルもありました。
- 今回、初めて離島での開催を試みました。メンバーの出張旅費の補助に支援金を当て、旅費の6割が賄えました。普段こうした活動を提供できない地域に出向くことができたという意義は大きいものの、ボランティアの上に自己負担分が発生するので、毎回出向くのは厳しいと思います。離島では事前に宣伝等の活動が難しく、集客については開催場所の施設のご協力をいただきました。それでも離島の離島という条件と、当日他のイベントと重なったなどの影響もあり、参加人数的には少なめとなりました。
- 人員不足（スタッフ）。また、観光客の参加者の少なさ。
- 野外活動が大きな部分を占めるため、当日（場合によっては前日も）が悪天候だと困る。
- 直前に参加者が増えましたが、なかなか事前の集客が難しかった。
- サンゴ礁ウィークの多くのイベントと連動した集客ができれば良いと思います。特に地元の人にもっと参加していただきたいのですが、参加費が通常のファンダイビングと同額のため、なかなか参加いただけないことに悩んでいます。
- サンゴ礁ウィークの多くのイベントと連動した集客ができれば良いと思いますが、我々のイベントは遠隔地での開催のため実際には難しいと感じています。

野外のイベントで天候を心配する声が多かった。また他の実施団体との情報交換を望む声もあった。事前予約のイベントを行う団体の中には集客に苦戦しているところがあった。また観光客の参加を視野に入れている団体もあった。

その他、協議会への要望やご意見（記述）

- 事前の材料購入などの個人立替があった為、支援金の振込日程を明確にして欲しかった。
- アンケート用紙のデータが前日に届き当日準備にちょっと手惑いました。